

黎明

～旭川龍谷高校
特進コース通信～

令和4年12月5日発行
第9号 文責：柴田

※黎明（れいめい）…「夜明け」の意の漢語的表現（三省堂『新明解国語辞典』より）

3年生特集…今こそ示せ、人間力 **Keep on Fighting!**

後 期中間試験が終わりました。Aコースの皆さんは、大学の推薦入試とモロかぶりの日程でしたね。長きにわたる小論文指導や面接指導を精力的にこなした皆さんに敬意を表します。また、Sコースの皆さんは、嵐のような模試のラッシュから解放されるも束の間、共通テスト対策が始まって、休む間もなく中間試験。おつかれさまです。他の人と自分を比較するのは、愚の骨頂。共通テストまで、まだ40日ほどありますから、自分を信じて徹底的に対策に励んでください。

さて、この時期に心配されることがあります。1・2年生も来年、再来年のことですから今から肝に銘じてほしいものですね。

独 善的になっていませんか？推薦受験した大学の合格内定が出ました。周囲は、まだ「これから本番」という人が多数いる中で、一人だけはしゃいでいませんか？アルバイトに魂を奪われていませんか？自分を支えてくれた方々への感謝を忘れ、周囲への配慮を忘れ生活していませんか？推薦入試で合格内定を勝ち取ったこと自体は、素晴らしいことです。だからこそ、一般入試で受験する人たちよりも高い学力を身につけて龍谷を卒業してほしいのです。したがって、小論文指導や面接指導を受けていた期間より、さらに集中力を研ぎ澄まして生活すべきだと強く考えます。推薦合格内定した人には、その義務と責任があるのです。

年 末が近づくと、いつも私の友人Sのことを思い出します。Sは大学5年（留年したのですね）の時、高等学校教員採用試験になんとか登録されました。登録されなかった仲間のことなど考えもせず、「世界は俺を中心に回っている」というはんかくさい思想の元に、毎日有頂天ホテルでした。そんなある日、Sは数学科のG教官から呼び出されました。「君は高等学校に登録されたそうだが、卒業できるのかね？」Sは厳しいことで有名なG教官の「微分積分学」など、4つほどの単位を落としていたからです。毎日、有頂天・能天気だったSには晴天の霹靂でした。それでも「3か月後、一週間連続の口頭試問」というラストチャンスをもらったSは、そのラストチャンスに向けて一生分の努力を重ねました。よほど辛い毎日だったのでしょう。野球部OBとの新年会でSは「卒業、あきらめようかな」と漏らしました。「Sの夢だった、高校野球の指導者がもう少しで実現するんでしょ？あきらめることを生徒に見せるの？」と厳しくも暖かい言葉を同期からもらったSは再び、がんばりました。果たして口頭試問最終日終了。研究室を出ようとしたSに、G教官が声を掛けました。「62**番(Sの学生番号)、やればできるじゃない」と言い、ふだん笑わないG教官が笑顔だったそうです。今はG教官の「口頭試問」の意味が分かります。

さあ、3年生諸君、最後の最後まで戦い続けましょう！戦える環境を整えてくれる方々に、感謝の心を忘れることなく戦い続けましょう！

編集後記

本格的に雪が積もりましたね。私は、冬は嫌いではありません。「冬来たりなば、春遠からじ」と言うではありませんか。現在は辛くとも、必ず良いことはあります。でも、準備を怠っていると、その「良いこと」は残念ながらやってきません。「とけこめば、冬の寒さは暖かい」。3年生のみなさんにとって、価値ある冬になれば良いなと願いながら、通信を書き終わりました。（3年D組副担任：柴田 靖幸）